

地域で支える学校にしたい！

～学校支援に取り組む二つのNPOの実践を紹介します～

平成14年度から学校教育に「総合的な学習の時間」が導入されたことによって、都内のいくつかの地域や学校区で、地域の人々が学校教育を支える活動が始まっています。

地域の子どもたちを地域の大人が責任を持って育てたい、体験を通じて子どもに実社会の姿を伝えたい、社会に貢献している大人の姿から自らの未来を思い描いて欲しい、そんな思いから、様々な形で地域の人々が学校教育や地域活動に関わりはじめています。

今回は、杉並と三鷹で行われている二つの団体で中心的に活躍されているお二人から、学校支援活動に対する思いを伺いました。

杉並

特定非営利活動法人(NPO)スクール・アドバイス・ネットワーク



杉並区教育委員会では、総合的な学習の時間や学校週五日制が本格導入されたことを受けて平成14年度から区内の4つの中学校区に学校を支援するサポーターと学校の連絡調整や地域人材を活用した企画提案等を行う「学校教育コーディネーター」を配置しています(現在、4中学校区)。この取組の一部を区教育委員会から委託されているのが「NPOスクール・アドバイス・ネットワーク」(以下「S.A.net」)です。

このS.A.netの設立に関わり、現在理事長をなさっている生重幸恵さんに、お話を伺いました。



地域の人々の力で豊かな教育内容を

生重さんが、こうした学校教育と地域の人材をコーディネートすることの必要を感じたのは、杉並区立天沼中学校でPTA会長を務めている時でした。江戸文化の体験学習の際に、保護者が先生をサポートする、という場面がありました。また、地域で職場体験をさせたい、という学校の要望に応じてPTAがその橋渡しをしたということもありました。その時に忙しい学校の先生を地域に様々なつながりを持っているPTAが支えながらより豊かな教育内容を創れるのではないかと、また、子どもが生き生きと学ぶ成長する姿を先生と親が見守ることで学校を地域が支えていくことにつながっていくのではないかと考え、PTAに関わっていた人たちと学校を支援するNPOを立ち上げました。特定の人が多く多くの労力を費やして学校に関わるのではなく、1年間をとおして一人でも多くの親や地域の人が、一回でもいいから、その人ならではの学校への関わりをするようにしていく。生重さんの言う学校教育コーディネーターの役割は、学校が求めている教育内容と、地域や民間企業の人材を橋渡しするということです。

子どもたちに「プラスの遺産」を引き継ぎたい

「S.A.net」はこれまで学校の先生と数多くのプログラムを創ってきました。大切にしているのは、こういう大人になりたい、こういう仕事をしてみたい、という自らの夢を描けるように動機づける、ということ。そのためにも、子どもたちが社会で活躍している多様な人たちと出会う、職場体験などを通じて現実の社会との接点をつくる、ことが必要です。大人が一生懸

命に創り上げてきたもの、生み出してきたもの、を伝えることによって子どもたちの新しい時代をつくる意欲が育まれる。そしてその蓄積は地域に目を向けさえすれば、身近に沢山あるということに気づくはずで

す。経済成長にも翳りが見え、地球環境が悪化する一方で資源にも限界が見え始めている。そして社会の規範意識も崩れ始めている。こんな時だからこそ、今の大人が子どもたちに「マイナスの遺産」ではなく「プラスの遺産」を引き継いでいきたい、と生重さんは話します。

NPOスクール・アドバイス・ネットワークのホームページアドレス

<http://www2.sshin1.net/s.a.net/index.htm>



中学2年生の職業体験「夢の実現にむけて!」 様々な職場を訪問し、そこで仕事の実際や働いている人と話す。このプログラムは通称「ドリカム」と呼ばれる。写真は都内の食品工場での職業体験。